

長岡市地域コミュニティ事業補助金

事業実施報告書

事業名	魅力ある集落づくり事業
事業の内容	<p>【目的】 集落内にある地域資源を活用した遊歩道を整備し、案内看板等を設置する。 共同作業により実施することと、子どもから高齢者までが参加することにより集落の交流を更に高め、集落活性化を図ることを目的とする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高森城跡周辺の遊歩道整備と案内看板などの設置 ・高森城跡のパンフレットの作成 ・秋まつり(収穫感謝祭)実施に伴い、前夜祭にてレクリエーションと竹灯籠の実施 ・炊き出し訓練と、地区に伝わる伝統料理講習会 <p>詳細については、別紙の魅力ある集落づくり事業実施報告のとおり</p>
事業の実施による効果	<p>集落内に埋もれていた史跡を後世に残すことができ、整備された遊歩道を地区内外に発信し、交流が期待される。また、竹灯籠作りや遊歩道の整備など共同作業を実施したことにより、集落の一体化と活性化が図られた。</p>
今後の課題	<p>整備された高森城跡周辺の遊歩道のPRと維持管理の体制を検討する。</p>

(注) 記入内容が多くなる場合は、適宜ページを増やしてください。

別紙

魅力ある集落づくり事業実施報告

平成20年5月18日(日)(参加者: 70名)

・両高集落臨時総会にて、事業の取り組みについて協議をし、実施することで承認される。

平成20年6月28日(土)(参加者: 15名)

・両高集落役員及びエコ保内両高の皆さんと有志にて、事業の実施検討会を行い代表者(世話人)の選定をした。

代表者……両高集落区長

平成20年7月13日(日)(参加者: 17名)

・活動内容(イベントの担当)と詳細な予算についての検討会

①高森城跡を中心とした遊歩道の整備について(担当: 小黒勇)

②史跡の案内看板について(担当: 小林博)

③秋まつりの前夜祭に行なう竹灯籠の準備について(担当: 阿部甚一郎)

④料理講習会及び秋まつりに行なうイベントについて(担当: 役員全員)

以上、子ども会・老人会・エコ保内両高等の地区内各団体の協力を得て集落内全体の事業として進めることで確認した。

平成20年7月27日(日)(参加者: 14名)

・遊歩道の整備の実施(一回目)

老人会が、草刈機・チェーンソウなどにより、遊歩道の草刈や雑木などの整備を実施。

平成20年8月9日(日)(参加者: 120名)

・炊き出し訓練と遊歩道整備(二回目)の実施

ここ数年の間に連続して起こった地震により甚大な被害となったことを教訓に、いつ災害がきても対応できるようにと、まずは、炊き出し訓練を実施した。

女性は、屋外にて、かまどを使って米を炊く方法を、老人会が若い人達に教えた。また、男性は、遊歩道の整備を行い、お昼には、かまどで炊いたおにぎりを皆で試食し、集落の裏山に位置する高森城跡についての説明会も行なった。

午後からは、集落センターの改築に係る上棟式が行なわれて、もちやお菓子をまいて祝い、夕方には、納涼大会を行い集落のコミュニケーションを図るなど、盛りだくさんの一日であった。

平成20年10月4日(土)(参加者: 28名)

- ・竹灯籠の準備と遊歩道整備及び史跡案内看板の設置

秋まつりの前夜祭に行なわれる竹灯籠の準備のため、約500本の竹灯籠を作成した。また、集落の裏山に位置する高森城跡周辺の遊歩道の案内看板や史跡説明看板の設置作業を行なった。

平成20年10月11日(土)(参加者: 60名)

- ・秋まつり前夜祭にて、各班対抗の輪投げ大会と竹灯籠の実施。

5班に分かれて、班対抗の輪投げ大会を実施。大人も子どもも皆いっしょになって、楽しいひと時を過ごした。特に賞品は設けなかったが、優勝した3班には、皆さんから、盛大なお祝いの拍手が贈られた。

また、竹灯籠の準備では、子ども会や老人会が行ない、18:00頃皆で点火した。当日は、あいにく風が強くて大変であったが、それでも集落内を竹灯籠で埋め尽くし、幻想的な世界を心行くまで堪能することができた。

平成20年10月12日(日)(参加者: 130名)

- ・秋まつり(収穫感謝祭)と集落センター竣工式の実施。

秋晴れの下、秋まつり(収穫感謝祭)と集落センターの増築工事の完成による竣工式が行なわれた。子どもによる「みこし」で幕を開け、午前中は竣工式も行なわれ、お昼には地域に伝わる伝統料理を講習し、懇親会。午後からは、餅つき大会と楽しい一日を過ごした。

平成20年11月30日(日)(参加者: 12名)

- ・そば打ち大会と高森城跡周辺の散策についての打ち合わせ

12月21日(日)に実施。午前中はそば打ち大会、午後からは、高森城跡周辺の散策を実施することに決定する。

平成20年12月21日(日)(参加者: 75名)

- ・そば打ち大会と高森城跡周辺の散策を実施。

12月と思えないほど晴れた温かい日となった日曜日、集落にて収穫したそばを使って「そば打ち大会」を開催した。レシピを見ながら、皆真剣に取り組み、自分達で作ったそばをおいしそうに食べていた。午後からは、史跡の案内表示をした高森城跡周辺の散策をして、事業の完了を確認し合った。

・史跡看板の設置(高森城跡)



・秋まつり前夜祭に実施したレクリエーション



・秋まつり前夜祭に実施した竹灯籠の点火



・竹灯籠



・料理講習会



・そば打ち大会



風間信濃守信昭公 初め住し地

高森城跡

〔所在地〕両高字腰廻り(標高70〜101M)

戦国時代・直江家臣であった
高森氏の要害地

立地

両高集落の北端、西山丘陵の西側丘陵から東方に派生した標高101メートルの高森山々頂部と、俗称「城」または「城山」と呼ばれる標高六五以上の尾根上に立地する。現況は山林。

遺構

高森山々頂部は、三八×八メートルの長方形の郭であるが、周囲に腰郭の備えがない。尾根上の郭群は、四方に暖傾斜する不整地な郭を四〜五か所に配置し、要所に土塁や浅い堀切の構えもあるが、概して簡略な縄張りとなっている。これら不鮮明な構造は、南北朝期山城としての特色を残しているものといえる。

城歴

『温古の葉』第二四篇の「村岡の古城跡」の項に、風間信濃入道信昭は初め高森山に住し、建武年中安塚山に移ったと伝えるのみである。遺構は南北朝期のもものと把握されることから、村岡城を拠点とした風間一族に關係した城と考えられる。したがって、高森氏が館を構えて居住していた戦国時代の後半には、城としては存在していなかった可能性が高い。

高森縫殿之助山緒

先祖越後三島群之内高森二居館座候ニ罷在則在名二御座候
 一 祖父高森中務於与板直江家之侍ニ而、昼夜之働申ニ付而從景勝様代々之武刃之者共被御感御書被下置候ニて高梨源五郎所ニ御座候 ▲高森中務越中御出馬之御陣之前後をあらそひ閉門ニ被 仰付而御国替之節後本領ニ罷在病死仕候嫡子孫左衛門米沢直江山城殿を頼申所ニ知行六拾石被下与板組ニ而大坂兩御陣相勦申候 定勝様御代孫左右衛門祖式無相違実子拙者ニ被 仰付当年迄五拾四年御奉公申上候已上

〔先祖出緒書帳与板組〕米沢市立図書館所蔵

高森略系譜

- ・高森中務
越後与板直江家之上ニテ越後三島郡高森二居館座候在命ヲ以テ号軍功ニ依テ、景勝公御感状給テ越中御出馬之刻前後ヲ争ヒ閉門命之ヲ時會津工御国替之刻本領ニテ卒ス
- ・孫左衛門始小源太
慶長六年米沢上り直江山城守ヲ以御訴訟申上之秩六十七石八斗三升賜之与板二入庭坂工被差置大坂兩御陣ニ供奉ス寛永九年申上ス
- ・縫殿之助繁頼
始源太寛永九年家督秩六十七石八斗三升賜之与板二入御半領ヨリ三十三石余賜之貞享四年申上致仕
- ・文七頼久
始猪之助元禄二頼次貞享四年中家督秩廿五石賜之与板二入元禄十六年五月申上致仕
- ・藤内頼堯
元禄十六年五月中家督秩廿五石賜之与板二入江府番帳四度勤之元文四年正月十八日御台所頭命之宝曆三年正月五日物頭命之加増百七十五石賜之總計二百石同十二年十二月申上致仕
- ・平内堯義
実祖外舟岡源左衛門二男宝曆十一年十二月申上致仕五十五石賜之与板二入江府番帳三度勤之安永六年十月十一日御兵具歳役頭命之寛政元年八月廿三日物頭命之加増百五十石總計二百石賜之同九年十二月十四日致仕
- ・磯右衛門堯智
寛政九年十二月十四日家督秩五十五石賜之与板二入同十一年十二月九日申上ス
- ・磯五郎堯理
後堯忠又改典堯藤内二改寛政十二年二月十日家督秩廿五石賜之与板二入弘化四年九月朔日御應部屋横目命之嘉永五年正月五日秩絶足輕組頭命之加秩總計二百石賜之安政二年十月七日致仕

〔上杉御年譜〕二二三、諸士略系譜
米沢温故会編

初代高森中務は上杉家臣団の与板組御家中として戦国期より仕え、居を三条(三島の誤り)郡高森に居館を構え、軍功があった。慶長二年に会津に移った一代孫左衛門は慶長六年更に米沢に移り六十七石余を賜り、大坂冬の陣に従軍している。以下幕末まで続いている。



長岡市地域コミュニティ事業
魅力ある集落づくり事業実行委員会
【お問い合わせ】長岡市両高
電話 0258-74-2358

